

「 「百一回目」に備える 」

神奈川県 厚木市立厚木小学校 5年 田代^{たしろ} 空^{そら}

非常に強い台風 12 号は、異例の進路をたどり昼頃には関東に接近する見込みです。沿岸部では風速 50 メートルの風が吹くと予想されており、避難を呼びかけるなどして警戒を強めています――。

ぼくは神奈川県の内陸に位置する市に住んでいる。家はマンションの 8 階だ。

母はこれから来る、東から西へと進む「異例の台風」に備え、ベランダの植木鉢などを部屋に入れていた。その横でぼくは、リモコンを片手に、くり返し伝えられる「異例の台風」という言葉や、防災無線から流れる避難を呼びかける放送に、どこかそわそわしていた。でもそれは、不安からくるものではなかった気がする。

結局、この異例の台風は、ぼくの部屋から見る限りでは、雨も風もそこまで強くはならず、普段の雨の日とあまり変わらなかった。

この台風が来る少し前、西日本で豪雨による土砂崩れや、堤防の決壊による大規模な浸水が起き、多くの被害が出た。この時被災した人々が口にしていたのは、「まさか」「今までこんなこと」「うちは大丈夫」など、どれも経験からくる油断だとわかる。

実際、ぼくも今回の台風で、経験のない被害が出る可能性があると思えばあれだけテレビで目にしても、自分の家の周りが浸水したり、被害を受ける想像は全くしなかった。それは、家は 8 階で、河川から 1 キロ近く離れているからだ。西日本豪雨で被災した人々もきっと同じようなことを思っていたのではないだろうか。

今回のことからわかるように、災害が迫っているにも関わらず「自分だけは大丈夫」と、避難しない人がいたり、一方で、避難をしたくてもそれが難しい人もいる。こういった状況の中で人々の意識を変えるにはどうしたらいいのだろうか…。

まず、自分たちでできることは、ハザードマップの確認だと思う。その上で、地域の人々で情報を共有し、連携して避難を呼びかけ合ったり、普段から実際に災害が起きた時のような訓練を重ね、いつ災害が起きてもあわてず行動できるように心がけておくことが大切ではないだろうか。

他にはどんなことで被害を減らすことができるだろう。

街全体で考えた時には、災害に強いまちづくりが挙げられる。国土の 7 割が森林の日本では、代々山沿いの地域に住む人も多く、また山を切り開いて新たに作られた住宅地も多い。そういった地域では土砂災害が起りやすい。そのため砂防えん提を作ったり、斜面を補強したりするなどしているが、想定を超えた災害により被害を防げない場合もある。

結局、一番大切なことは、身の回りで起きるわずかな変化に気付き、一人一人が「自分の命は自分で守る」という意識を持つことだと思った。

近年、外国人観光客が増加しているが、このような災害が起きた時彼らはどうしたらいいのだろうか。ニュースは日本語で流れ、外国人は状況を理解することができないだろう。こうした災害弱者にどのように情報を発信し、安全に避難させるかも重要だと思う。

災害は予測できるものではない。だから、人々はいつ起こるかわからない災害に日頃から備えていなければならない。どこかで災害が起きた時、他人事だと思わずにその教訓を生かし、同じあやまちをおかさないことだ。

「自分だけは大丈夫」などという考えは絶対持つてはいけない。たとえ百回避難して、何事も無くても、百一回目に何が起こるかは、誰にもわからない。